

今どきの社会事情② 「合理的配慮」

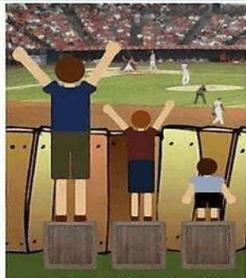
前号では『障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律』の施行により、今後共生社会の実現を目指し、障がいのある人とない人がかかわりあう場面が増えていくことを紹介しました。

障がいのある人が適切な配慮を受けることで、自分の生き方を主体的に選び実現していくことができるようになります。そしてその配慮は、個々のニーズに応じて適切で適度であり、誰もが納得できるものでなければなりません。それが『合理的配慮』です。

下の図を見て「教育における『平等』」について考えてみましょう。学級という集団になると、みんな『同じ』が『平等』という雰囲気が強くなり、『違い』を権利として認め合うことが難しくなりがちです。図では、足もとの台を『配慮』と捉えます。」

教育における「平等」について考えてみましょう。

「平等」のイメージ



<http://www.joebower.org/2013/06/fair-isnt-equal.html>

「公平」のイメージ



『平等』のイメージ図では、「全員の子どもに同じ高さの台を『平等』に用意します。その結果、試合が見られない子どもがいます。個々の特別なニーズ（ここでは身長差）には配慮されていません。」一方、『公平』のイメージ図では、「それぞれの子どもにあった高さの台を『公平』に用意します。その結果、全員が試合を見られるようになります。」

試合を見ることを「教育のスタート」と捉えると、「前述の『平等』では共に学ぶことができません。『公平』な配慮が共に学ぶための『合理的配慮』となります。共生社会においては『公平』の考え方をみんなで共有する必要があります。」

『合理的配慮』は、本人の状態や支援の内容、体制等、様々な条件や情報を共有し、総合的に判断した上で合意し、責任ある形で決定していくという手順が求められます。」あくまでも障がいのある人が主体的に自分の力を発揮していくことが目的であり、本人が必要としないような過剰な配慮は合理的とは言えないのです。また、決定した内容は個別の教育支援計画に明記しておくことが大切です。発達の程度や適応の状況等を考え合わせながら、柔軟に見直していくことも必要となります。」

特別支援教育センターHP より「 」部分引用

Q&A ～家庭のひとこま編～

Q ゲームに熱中していました。1回あたりの時間を約束したのですが、守ってくれません。

A 「30分前だよ」「10分前になったよ」「そろそろ時間だよ」等と、終了時間が迫ってきていることを伝えてみてはどうでしょう。

10分前

終わったね



ゲームは楽しいものです。長時間ゲームをすることは何が問題なのでしょう。視力の低下やドライアイ、スマホ姿勢等が問題となっており、成長期の子どもには心配の種ですね。

社会にはたくさんのルールがあり、それを守ることで社会生活が成り立っています。家族間のことも同様です。ルールを決めるときは、親子で話し合いをし、子どもも納得した上で決定することをお勧めします。また、いきなり「終わり」と告げられるより、「そろそろ」と予告されることで、自分で気持ちを切替えることがしやすくなります。「また、やろうね」そんな言葉を返していきたいですね。



もうゲーム捨てる！

怒ってもらうから

勉強もその位熱中して

編集後記 第3号の作成始めは夏休みの暑い最中。言葉を選び、構成を検討して、完成する頃には秋の気配が。年内は第4号まで発行予定。合言葉は「慌てず急ごう」。知りたいこと載せてほしいことなどありましたらお寄せください。 (井上・鈴木)

表面の答え
鳥とうさぎ